

第3章 子どもを支える学校づくり

基本目標6 四日市ならではの

地域資源を生かした教育の推進



四日市ならではの地域資源を教育に生かすことにより、ふるさと四日市に誇りと愛着を持ち、社会の一翼を担う人材を育成するための教育を推進します。

- 1 歴史・文化・自然を活用した教育の推進
- 2 高度なものづくり産業と連携した教育の推進
- 3 公害対策モデル都市としての環境教育の充実



1 歴史・文化・自然を活用した教育の推進

◆ ねらい

四日市市は豊かな歴史と自然を背景に、様々な文化が育まれ、現在も数多くの文化財や伝統芸能などが継承されています。本市のもつ地域資源を教育に活用することにより、ふるさと四日市に対する誇りと愛着を育むとともに、地域とともにある特色ある学校づくりを推進します。

◆ 取り組み指標とその評価

取り組み指標	基準値	H28	H29	H30	H31	H32	目標値
博物館・久留倍官衙遺跡及び地域の歴史・文化・自然等を学習教材として活用した学校数(校)	小38 中22	小38 中22	小38 中22				全小中学校 (60校)

・取組指標・・プラネタリウム学習投映と、特別企画展を中心に市内全ての小中学校に活用していただきました。より、効果的な学習教材となるよう投映・展示の充実を図ります。

◆ 具体的な施策の現状と課題

(1) 博物館の活用

常設展「時空街道」、学習支援展示「大昔の四日市」「四日市空襲と戦時下の暮らし」、特別企画展「なつかしい暮らしと昭和の元気なこどもたち」では体感的な展示を通して学習支援を行っています。

＜学習支援展示・子ども博物館教室＞

- ・学習支援展示と博物館教室の体験的なワークショップの連携により、歴史・文化に対する学習効果の向上を図りました。
- ・地域人材による本市の歴史に関する講演会の開催や四日市空襲体験者による空襲体験を語り継ぐ場を設け、地域の歴史的資源の活用を図りました。
- ・未就学児を対象としたワークショップを新たに開催し家庭教育と博物館の連携を進めました。今後、内容の充実を図り効果的な博物館教室を目指します。

＜小中学校との授業連携＞

- ・なつかしい暮らし展では受身的な見学ではなく、各校の先生に展示や特設した体験コーナーを活用して、博物館で授業を行っていただくことができました。

◆ 今後の方向性

- ・学校での授業と博物館の展示が相乗効果を生み出すことができるよう、博学が連携した授業展開についての研修を進めます。

特別企画展(学習支援展示).1/2~2/28 なつかしい暮らしと昭和の元気なこどもたち	
小中学校、見学 (うち市内小中学校)	39校 2538人 (34校 2222人)
保育園・幼稚園 (うち市内保育園)	5園 190人 (4園 153人)
学校見学を除く、 小中以下の入場者数	589人



四日市空襲を語り継ぐ場



未就学児対象の親と子のワークショップ

教職員研修受入数 (内社会体験研修)	
H28	41人(3人)
H29	17人(5人)

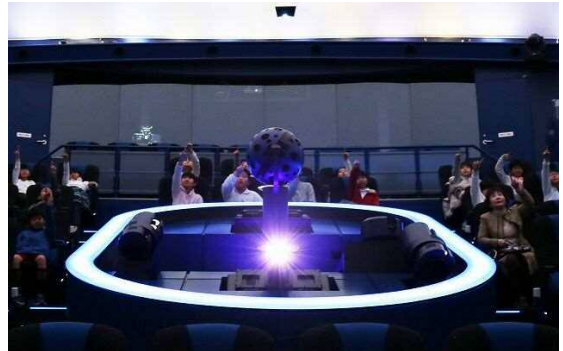
◆具体的な施策の現状と課題

(2) プラネタリウムの活用

宇宙や星について、より理解を深めるために、特色あるプラネタリウムの機能を生かした体験的な学習投映を行っています。

＜小学校を対象とした学習投映＞

- ・各学校の校庭から見た星空を忠実に再現し、時間とともに動く月や星座のスケッチなど、体験的な活動を重視した学習投映を実施しています。
- ・小学校5年生を対象に投映している四日市オリジナルの環境学習番組「アースメッセージ」では、公害と星空の関係は理解できるが内容がやや難しいという学校からの意見がありました。



小学校の学習投映の様子

＜中学校を対象とした学習投映＞

- ・「四日市公害と環境未来館」と連携して、環境学習を取り入れたプラネタリウムの観覧を市内全中学校で実施しています。
- ・投映時期や学校の要望に合わせ、投映のプログラムを2種類から選択できるようにしています。

季節ごとの太陽の動きや各方位の星の動きなどを再現することで、より理解を深めることができました。

中学校の学習投映の利用状況
22校(3,017人)

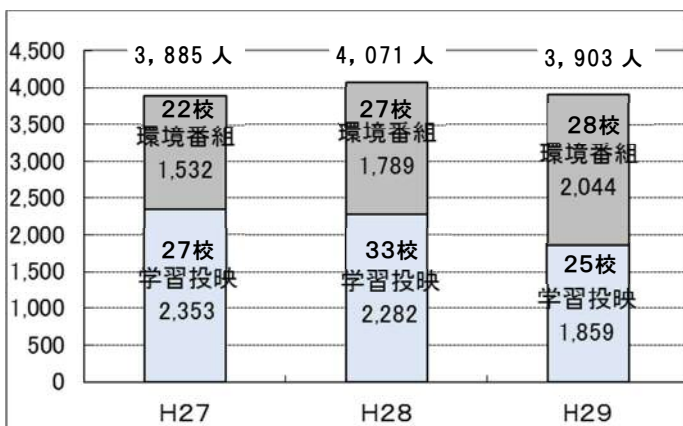


中学校の移動式プラネタリウムの様子

＜移動式プラネタリウムを活用した授業＞

- ・担当教員と天文係職員の協働による授業を実施しました。博物館プラネタリウムと移動式プラネタリウム、それぞれの利点を生かしながら学習を行うことで、より学習を深めることができました。

市内小学校学習投映利用者数の推移



◆今後の方向性

- ・環境学習番組「アースメッセージ」の番組内容の資料を作成し、事前学習などに活用してもらえるよう各学校に紹介していきます。
- ・市内小学校の利用者数が減ってきています。学習投映内容の市内小学校への周知を図り、各学校の要望を取り入れながら、プラネタリウムの活用を進めていきます。

◆ 具体的な施策の現状と課題

(3) 久留倍官衙遺跡の活用

大矢知町にある「久留倍官衙遺跡」は、飛鳥時代からの地方の役所と考えられている遺跡です。壬申の乱や聖武天皇東国行幸などの史実と結びつく可能性により国史跡として指定された、四日市ならではの地域資源といえます。四日市の歴史を知り、ふるさと四日市に対する誇りや愛着を持つ授業づくりの教材として活用できるように、「小中学校における久留倍官衙遺跡の活用計画」を刊行し、市内の小中学校に配付しました。



夏季研修会の様子

さらに、授業での活用を促進するために、新規採用教員対象に「久留倍官衙遺跡講座」を実施し、全教員対象にくるべ古代歴史館で「久留倍官衙遺跡④」の講座を開催しました。授業での活用を進めるためには、教員自身が久留倍官衙遺跡についての理解や興味・関心を深めることが大切です。久留倍官衙遺跡に魅力を感じ、地元ならではの地域資源として、授業に活用していけるよう、研修内容を工夫しています。

また、整備が進められている久留倍官衙遺跡公園で、ガイダンス施設「くるべ古代歴史館」が3月25日にオープンしました。学校教育の場で積極的に活用されるように、具体的な活用方法を社会科や総合的な学習の時間に関する研究協議会等で紹介していくことに力を入れていきます。

<学校との連携強化>

「小中学校における久留倍官衙遺跡の活用計画」で小中学校での活用例を紹介することに加え、学校の学習計画にに応じて、社会教育課職員による出前授業を行っています。29年度は久留倍官衙遺跡のDVDを見たり、出土資料を使った授業を行いました。さらに、出土資料の貸出しも行っています(29年度10校)。子どもたちが本物の土器に触れ、観察することによって、実際に使われていた時代に思いを巡らせ、いきいきとした歴史を実感できます。また、くるべ古代歴史館のオープンにより、今後、木簡や古代衣装など古代に関する体験ができますので、各学校の利用が進むように情報提供してまいります。



出前講座の様子

<発掘展 ～夏休み！子どものための考古学～>

夏休み中の子どもを対象に、地域の遺跡について知ってもらうために、市内で出土した土器などを市立図書館2階展示コーナーで展示しました。図書館で開催する利点として、歴史に関連する図書コーナーを設置することにより、地域の歴史への興味を発展させ、自ら学ぶ姿勢を育てることができます。また、展示品と関連させたワークショップを2回(「木のしおりに文字を書こう!」「土器のもようを写しとろう!」)、見どころ説明「展示中の土器を説明!素朴な質問に答えます」を2回開催しました。

◆ 今後の方向性

- 地域の歴史を学ぶことは、生まれ育ったふるさとに誇りと愛着をもつ「心豊かな“よっかいち人”」を育成することにつながり、地域への興味・関心が深まります。整備が進む久留倍官衙遺跡を学校教育において積極的に、学習教材として活用できるよう、「くるべ古代歴史館」から情報発信に努め、学校との連携を深めていきます。

◆ 具体的な施策の現状と課題

(4) 自然体験の充実

- 全小中学校が自然教室を実施し、キャンプファイヤー、野外炊事やオリエンテーリング・ウォークラリー、カヤック等、豊かな自然の中で普段の学校生活では味わえない活動を実施しています。また、友だち同士助け合うことや協力することの大切さを学べるような活動を取り入れています。中学校では5校が冬季にスキー実習を中心とした活動を実施しました。

自然教室での実施プログラムと実施校数（鈴鹿青少年センター含む）

	御在所岳登山	雲母峰登山	入道ヶ岳登山	御在所岳スキー	ハイキング	キャンプファイヤー	野外炊事	OL・ウォークラリー	ナイトハイク	早朝ハイキング	自然散策	アスレチック	星座観察	搾乳・バター作り	茶摘	創作活動	里山保全	ネイチャーゲーム	カヤック
小	2	0	1	0	4	38	36	23	9	6	4	4	5	1	0	6	6	0	22
中	0	0	0	5	4	18	15	15	0	0	4	3	0	5	0	17	2	0	1

- 実施後の教職員アンケートからは、「自然の中での活動を通して、自然にふれる楽しさを味わい、自然を守り育てようとする態度を養うことができた」「係生徒を中心とした自主的な活動をする良い機会となった」「集団生活の中で、自分の役割を考え、責任をもって行動することができた」等の多くの成果が見られました。
- また、「活動を多く計画したため、時間的余裕があまりなかった」「子どもたちにとって、無理のない計画が必要だと感じた」等、プログラムを計画するうえでの課題もありました。

■ ■ ■ 第3章 子どもを支える学校づくり

■ ■ ■ 6 基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

平成 29 年度の施設利用状況

利用施設名	小学校（小5）	中学校（中1）
四日市市少年自然の家	38校 2825名	17校 1624名（2泊）
鈴鹿青少年センター		5校 972名（2泊）

※ 四日市市少年自然の家での利用定員の制限を超えた中学校5校については、鈴鹿青少年センターを利用しました。

◆ 今後の方向性

- 平成 30 年度から、中学校の自然教室を1泊2日で実施します。自然教室のねらいや子どもの発達段階に応じてプログラムを見直し、日常では体験できないようなキャンプファイヤーやオリエンテーリングをはじめとした自然体験活動をより充実させていきます。
- 夏季休業中に若手教員を中心として、野外活動「(内容)カヤック体験・飯盒炊さん」に関する研修会を実施するなど、教員の指導力の向上に努めます。

◆ 具体的な施策の現状と課題

(5) 文化・芸術体験の充実

平成 29 年度各学校・園での「芸術鑑賞教室及び文化芸術体験」実施状況

項目	幼稚園 (23園中)	小学校 (38校中)	中学校 (22校中)	達成率 (%)
全ての学年で、芸術鑑賞の機会を年1回以上もつ	23園	38校	13校	89.1%
わが国や郷土の伝統音楽・文化体験の機会をもつ	23園	34校	22校	95.1%

- 「文化芸術による子どもの育成事業」や「能・狂言教室」など、国や四日市市の文化芸術体験事業を活用することにより、芸術鑑賞の機会もった中学校数と郷土の伝統音楽・文化体験の機会をもった小学校数が昨年度と比べて増加しました。
- 我が国や郷土の伝統音楽・文化を体験する活動として、音楽科で箏や三味線の演奏体験、能狂言体験などが実施されています。
- 20校以上の小学校が万古焼体験を実施し、郷土の伝統文化に直接触れる体験学習を行っています。

(6) 地域の歴史・文化を体験する活動の推進

総合的な学習の時間等における地域の歴史や文化に関わる学習の実施状況

項目	小学校 (38校中)	中学校 (22校中)	達成率 (%)
総合的な学習の時間・生活科や社会科をはじめとする教科の指導において、地域の歴史や文化に触れる活動や体験学習を実施した学校	38校	21校	98.3%

第3章 子どもを支える学校づくり

6 基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

主な活動内容

小学校	万古焼体験、伊勢型紙、鯨船祭りや地域の祭り調べ、茶摘み体験、昔の暮らしや遊びの体験、戦争体験の聞き取り、地域めぐり、地域マップ作り、史跡めぐりや郷土調査等
中学校	地域の歴史・史跡・名所等の調べ学習や見学、福祉施設等の見学や体験活動、万古焼体験等の体験学習、和太鼓・獅子舞体験等

- 社会科や総合的な学習の時間において、昔の暮らしについての聞き取りや遊び体験をしたり、自分の住む町の歴史・史跡の調査や文化体験をしたりする学習が進められています。平成29年度、中学校において実施校が増えました。今後も年度当初から地域教材を活用した体験的な活動を、総合的な学習の時間等の年間計画に位置付けて取り組んでいきます。

(7) ものづくり・生産体験の推進

ものづくり・生産体験活動実施学校園実施状況

項目	幼稚園 (23園中)	小学校 (38校中)	中学校 (22校中)	達成率(%)
地域の地場産業や農業に触れる活動を実施した学校園数	23園	38校	21校	98.3%

主な活動内容

幼稚園	野菜・米栽培、きなこ作り、梨狩り、花壇作り、万古焼体験、竹馬作り等
小学校	野菜・米作り、花栽培、収穫物の調理体験、とうふ・きなこ作り、餅つき、わら細工・竹細工、万古焼・ランプシェイド作り体験、伊勢型紙
中学校	PTAとの花壇作り、野菜作り、伊勢型紙、万古焼体験、搾乳体験等

- 幼稚園から中学校まで、発達段階や地域や学校の特色に応じた、ものづくりや生産体験を組み込んだ体験活動が進められています。
- 子どもたちが自ら考え、判断・選択して行動するといった自発性や自主性を育む視点での体験学習にしていくことがさらに必要です。

◆ 今後の方向性

- 文化・芸術体験の充実については、関係機関との協力のもと、学校・園に対し「芸術鑑賞教室」等の実施に役立つ情報を提供していきます。
- 郷土資料館や博物館等と連携し、地域の歴史や文化について学ぶ機会を持ち、実際に見たり、聞いたり、体験したりするような活動を今後も進めていきます。
- 万古焼や四日市港等、「四日市ならではの地域資源」に触れる機会を教育計画の中に位置付け、体験したことをもとに自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現する活動や保護者や地域・社会へ発信するような活動の推進に努めます。

2 高度なものづくり産業と連携した教育の推進

◆ ねらい

四日市市の大きな特長である多様なものづくり産業や、四日市市が協定を締結しているJAXA（宇宙航空研究開発機構）と連携した教育を推進することにより、科学への興味・関心を高めるとともに、社会とのつながりの中での学びを、生活の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていこうとする態度の育成を図ります。

◆ 取り組み指標とその評価

取り組み指標	現状値 H27	H28	H29	H30	H31	H32	目標値
企業や JAXA の出前授業を受けたことがある学校数（校）	小中 16	小中 24	小中 28				小中 50校

- 出前授業を受けたことがある学校は年々増加していますが、まだ目標値の半数に達したところです。今後、さらに様々な機会をとらえ、本事業の意義や魅力について紹介し、より多くの学校で連携授業が実施されるよう取り組みを進めます。

◆ 具体的な施策の現状と課題

企業19社（出前授業16社、社会見学14社、教職員研修14社・四日市こども科学セミナー12社、2団体）とJAXAの協力により、連携教育を実施しました。

○ 連携授業

平成29年度は、企業、JAXA、合わせてのべ26回の連携授業を行いました。

- 企業との連携授業
実験や講義を通して科学の仕組みがどのように製品に生かされているかを紹介するなど、学校で学習する内容と実生活や実社会との関連を実感できる授業内容にしています。
- JAXAとの連携授業
宇宙に関わる豊富な映像と最新の科学技術や情報をもとに、宇宙への夢が広がり、知的好奇心を喚起する授業となっています。地球の環境を守るために自分にできることを考え話し合うなど、主体的・対話的な授業内容も増えてきました。

【企業との連携授業の様子】



（左）小学4年生
「地球の環境と天然ガス」
～超低温の世界を体験～

（右）小学5年生
「だし・うま味の味覚教室」

【JAXAとの連携授業の様子】

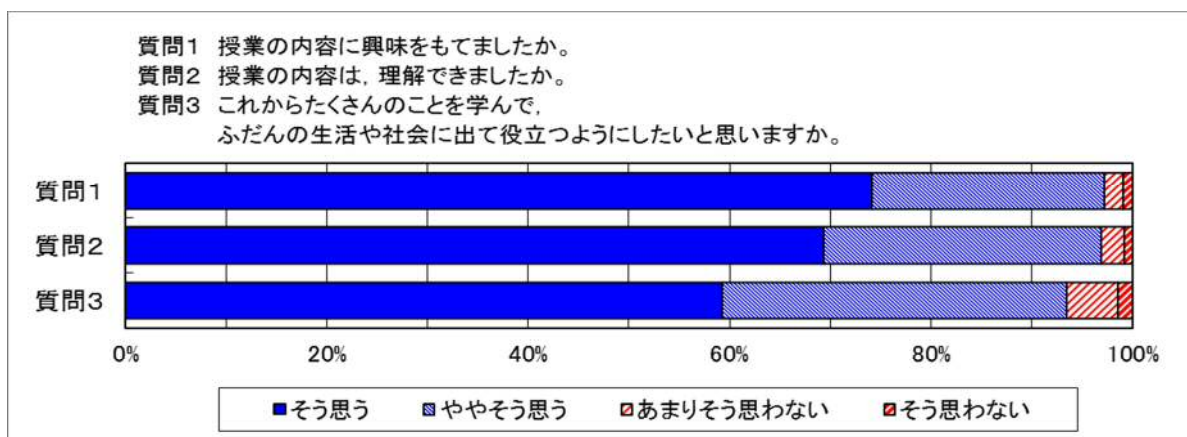


(左) 小学6年生
 「月と太陽」
 地球と月の大きさ・距離をモデル
 で実感する

(右) 中学3年生
 「宇宙飛行士に必要な資質とは」
 作らせた形を言葉で正確に指示
 するコミュニケーションテスト

連携授業を受けた児童生徒のアンケート結果は以下のとおりです。いずれの項目についても肯定的評価が90%を超えており、多くの児童生徒が内容に興味・関心を持ち、学習意欲の向上につながっていることがうかがえます。

【連携授業を受けた児童生徒のアンケート】



○ 社会見学（企業連携）

企業との連携による社会見学は、その工場や施設でしか体験や見学ができないことを、体感しながら学習します。平成29年度は、小学校を中心に、25件(20校)実施しました。

○ 教職員研修

平成29年度は、企業による1講座、JAXAによる1講座を実施しました。

・ 企業連携による研修

研修講座の参加者が、企業の持つ知識や科学技術などに触れ、教科で学習する科学技術と実社会とのつながりについて理解を深め、さらに、教科のどの学習場面で、企業連携研修で学んだことを生かした授業ができるか考え合う機会を持ちました。また、地域に根付いた地場産業を知る研修講座として萬古焼講座を実施し、若手教員を中心として実際に作陶を行う中で、萬古焼の良さや歴史について学びました。

・ JAXA 連携による研修

授業に生かせる学習教材とその授業例を学ぶとともに、宇宙を教材として活用する授業プランについてアイデアを出し合い、子どもの意欲をひき出す授業展開についてグループで話し合いました。

第3章 子どもを支える学校づくり

6 基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進



(左)
企業連携研修
「洗剤で汚れを落とすメカニズム」

(右)
JAXA 連携研修
「授業に宇宙を活用しよう」

○ 四日市こども科学セミナー

毎年夏季休業中に開催し、「ものづくり」「環境」「宇宙」をテーマに、子どもたちが科学にふれ、科学への興味・関心を高める機会としています。

平成29年度は、「①環境のまち四日市の水調べ」「②コズミックカレッジ～宇宙ってどんなところ?」「③四日市をささえる企業等による実験・体験」「④環境のまち四日市～自然環境調査・体験」「⑤山崎直子元 JAXA 宇宙飛行士講演会『四日市から宇宙へ』」を開催し、全体で約1260人が参加しました。

「水生生物の種類で水がきれいかわかるのがすごかった」「科学の力でいろんなことができることを知りました」といった子どもたちの感想や、「机上だけの勉強ではなく、実際に実験して学べるのはとてもいいと思います」「四日市にこんな企業があることを実感しました」といった保護者の感想が聞かれました。



コズミックカレッジ



企業等による実験・体験



山崎直子元 JAXA 宇宙飛行士講演会

◆ 今後の方向性

- 第3次学校教育ビジョンにおける基本目標の一つである「四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進」のために、四日市市の産業都市としての特長や、産業の発展と環境保全の両面の取り組みなどを、積極的にアピールできるように引き続き取り組んでいきます。
- 企業・JAXAとの連携授業では、キャリア教育の視点を大切にしながら実社会とのつながりを意識した内容にするとともに、これらの連携授業がより多くの学校で実施されるよう働きかけます。教職員研修講座では、企業等の持つ教育資源を効果的に生かした指導ができるよう、教職員自身が、その活用について考える講座とします。
- 「四日市こども科学セミナー」においては、企業・団体の協力を得ながら、ものづくりや環境、宇宙に関する取り組みなど、子どもたちの科学への興味・関心を高める取り組みを継続します。
- 企業・JAXAとの連携教育に加えて、四日市ならではの地域資源についても情報を整理し、授業や調べ学習で活用できる環境を整えるなど、取り組みの充実を図ります。

3 公害対策モデル都市としての環境教育の充実

◆ ねらい

地域住民・企業・行政が一体となり、産業の発展と環境保全を両立するまちづくりを進めてきた本市は、現在、公害対策モデル都市として歩み続けています。その環境改善の取り組みについて学ぶことでよりよい未来の環境を考え、家庭や地域とともに継続的に環境保全に取り組む子どもを育てます。

すべての教育活動において、将来にわたり豊かな環境を持続する「持続可能な社会づくり」につながる環境教育を推進します。

◆ 取り組み指標とその評価

取り組み指標	現状値 H27	H28	H29	H30	H31	H32	目標値
「四日市公害と環境未来館」 「四日市市立博物館」と連 携した環境教育を推進した 学校数（校）	小学校 38	60	60				全小中学校 (60校)

市内小学校5年生と中学校3年生を対象に「四日市公害と環境未来館」の見学を実施し、市内全小・中学校において取り組みを進めることができました。今後も引き続き見学機会の確保に努め、「持続可能な社会づくり」につながる環境教育の充実を図ります。

◆ 具体的な施策の現状と課題

(1) 持続可能な社会づくりにつながる環境教育の推進

○ 四日市公害と環境未来館・プラネタリウムと連携した取り組み

平成29年度は、市内全小中学校（60校）が「四日市公害と環境未来館」を見学しました。小中学校ともに、主に社会科や総合的な学習の時間と関連させて、学びを深めました。

具体的には、展示解説スタッフさんの話や展示から四日市公害の歴史を知るとともに、市民、行政、企業など様々な視点から四日市公害について考えました。小学校では語り部による講演を実施しました。中学校においては、「四日市公害裁判シアター」の視聴をするなど、公民分野で学習する司法の役割の理解を深めたり、人権教育につなげて学習を深めたりしました。また、学んだことを新聞などにまとめて発表するなど、保護者や地域に発信する活動を行っている学校もあります。

また、プラネタリウムと連携し、環境番組が視聴できる見学プランを設け、環境問題や自然科学への関心を高めています。

今後も、見学プランなど、各学校の学習状況に応じた



展示見学



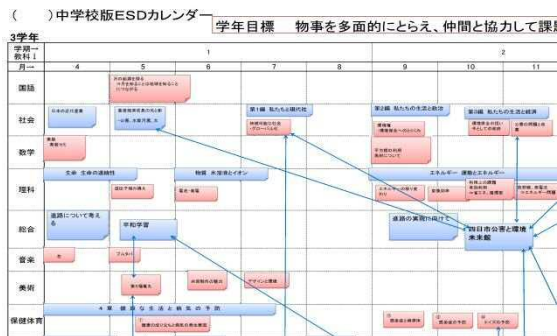
語り部による講演

第3章 子どもを支える学校づくり

基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

ものとなるよう、検討・改善を進めていく必要があります。

○ 四日市版E S D（※1）カレンダー（環境教育年間指導計画）の活用



中学校版 E S D カレンダー（例）

各教科や特別活動、総合的な学習の時間など、関連する学習内容を年間指導計画上に配列し、教科等横断的な学習の構造を明確にした E S D カレンダーを全小中学校で作成し、活用を進めています。作成、活用にあたり、E S D 講座を四日市公害と環境未来館と連携して実施し、E S D についての理解促進を図りました。

(2) 地域とともに進めるよりよい環境づくり

多くの小・中学校で家庭・地域及び企業等と連携し、体験を重視した環境教育を展開しています。幼稚園では、栽培活動や生き物の飼育活動、ごみの分別や資源回収などを学び、生活に根差した環境教育を行っています。また、国際連合の「世界環境デー」（6月5日）を受け、この日を「学校環境デー」とし、市内全ての学校・園で、学校の実情や地域性を生かした取り組みを実施しています。小中学校においては、E S D カレンダーにこれらの取り組みを位置付けることで、教科等の学習とつながりを持たせ、より学習効果を高めていく必要があります。

環境教育・環境保全活動を進めるにあたり、家庭・地域・企業と連携した取り組みを実施した学校の割合

小学校 (38校中)	中学校 (22校中)	達成率 (%)
36校	20校	93.3%

＜具体的な取り組み例＞

- ・ 地域の方や JA と連携した米作りや野菜作り体験
- ・ 地域の川で実施した水生生物調査や里山保全活動
- ・ ウミガメの保護学習に関する学習と産卵場所である吉崎海岸の清掃

◆ 今後の方向性

- 各学校による「四日市公害と環境未来館」「プラネタリウム」見学アンケートをもとに、さらに効果的な学習が実施できるよう、「そらんぼ四日市活用検討委員会」を年1回開催し、見学プラン等の検討・改善を行っていきます。
- 各学校で作成した四日市版 E S D カレンダーに基づき、学年間や教科間の学習の関連を図っていきます。また、四日市公害と環境未来館や関係機関と連携した研修会を開催し、E S D カレンダーを活用した環境教育を深めていきます。さらに、企業との連携授業、地域の人材・地域の環境資源等を活用した学習を支援し、持続可能な社会づくりにつながる環境教育を推進していきます。
- 環境保全課等と連携し、「グリーンカーテン事業」や「四日市の企業から学ぶ地球温暖化防止対策講座」などの環境教育の取り組みを進めていきます。

※1 E S D・・・現在、社会に潜む課題を自らの問題と捉え、身近なことから取り組むことで、課題解決につながる新しい価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習（Education for Sustainable Development）